

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市原町2丁目 計画	階数	地上8階 地下1階
建設地	大阪府吹田市原町	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	146 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2023年11月21日
敷地面積	2,966 m ²	作成者	株式会社日企設計 森田俊和
建築面積	1,220 m ²	確認日	2023年11月21日
延床面積	7,272 m ²	確認者	株式会社日企設計 森田俊和



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 97% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 97%

④上記+ 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 (Q1のスコア=3.1)

音環境	3.5
温熱環境	2.8
光・視環境	3.0
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能 (Q2のスコア=3.2)

機能性	3.5
耐用性	3.0
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア=3.0)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア=2.0)

建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	1.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア=3.3)

水資源	3.0
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア=2.9)

地球温暖化	3.1
地域環境	2.8
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 室内環境に配慮するとともに、環境にも配慮し計画をした。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 内装材等にF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用した。	Q2 サービス性能 給排水配管に耐用年数を長いものを採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 地域性・アメニティへの配慮に関して標準的な取り組みを行った。
LR1 エネルギー 断熱等級3を満たすように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 断熱材にODP=0かつGWP=50未満を採用し環境負荷を配慮した。	LR3 敷地外環境 駐車、駐輪スペースの適切な量と場所を確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市原町2丁目 計画					
	建設地	大阪府吹田市原町					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					3	
④	エネルギー削減					1	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.1	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	1.2	1
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		